

思いをつなぐ同窓会 ～新旧支部長対談～

このたび、4期8年に渡って支部長を務められた**笠井ひで子さん (S44 卒)**が退任されることになり、新しく前副支部長の**鹿野由貴さん (S48 卒)**が支部長に選任されました。

そこで、お二人揃っての席でお話を伺いました。つながれていく嚶鳴同窓会東京支部への思いを感じていただければ幸いです。

—**笠井さん、8年間お疲れ様でした。振り返ってみていかがですか？**

笠井—8年もよくやったなあ、という感じですね。こんなに長くなるとは思っていませんでした。

—**印象深い出来事はなんでしょう？**

笠井—やはり東日本大震災の年です。落ち込んでしまい、総会が開催できるのか迷いました。そんな時役員に集まってもらったら、みんなの顔を見ただけで元気が出て、ぜひ総会を開きたい、みんなに会いたいと思いました。あの時の「あなたの笑顔に会いたい」というメッセージは心からの切実な思いでした。評議員会も開けなくて、案内状は評議員に宅急便でお送りする事態でしたが、例年以上の出席があり、顔を合わせる事、直接言葉を交わすことの大切さを感じました。それが一番心に残っています。

—**鹿野さんは笠井さんの下で副支部長を務められてからの支部長就任ですが、いまの心境は？**

鹿野—大宮先生の思いから始まった集まりが組織化され、神尾さん、遠藤さん、田中さん、笠井さんという素晴らしい先輩方が支部長を務められてきたので、私のような者でよいのかと今でも思っています。ただ、重い責任を感じながらも、逆に私が務めることで誰にでも出来る役職のひとつとっていただけたら、引き受ける意味があるかもしれないと・・・。

笠井—確かに4年くらいのサイクルで交代して、もう少し気軽に引き受けられるものになればいいですよ。

鹿野—そのためにも、仕事の効率化を進めて一人一人の負担を減らしていかなければとも思っています。女性の社会進出が進むなどの状況に合わせて、同窓会活動のあり方を考え直すいい機会かもしれません。また、個々が興味を持って参加してみようと思うような情報を広く発信することが必要になってくるかと思っています。

笠井—そうですね。この数年で強く感じたのは、若い世代に電話や手紙が繋がらなくなったということです。同期の横のつながりがあまりない学年も増えてきました。そうすると他の連絡手段を考えていかなければと。鹿野さんのITスキル、そして度胸と度量に、大いに期待しています。

鹿野—山形の他の高校の同窓会も同じような悩みを持っているようですので、東京支部同士の交流なども深めて、情報交換もしていきたいですね。

—**なるほど。では、同窓会の活動が変わらざるを得ない中、変わらないものは何でしょう？**

笠井—やはり、どんなにITで便利になっても、直接会って話すことの喜びがあると思います。その場を提供するのが同窓会の役割ではないかと思っています。

鹿野—そうですね。先日、山形の同窓会入会式に出ましたが、初対面の在校生とも同じ西高生ということでスッと壁が取り払われる感覚がありました。世代は違えど、山形を離れているからこそその故郷への思いがあり、その思いをつなぐのが同窓会だと感じました。

—**ありがとうございました。笠井さんには今後も顧問としてご助言をいただきます。鹿野さん、これからどうぞよろしくお願ひいたします。(聞き手・広報田中)**



鹿野由貴支部長と笠井ひで子顧問